

果樹病虫害発生予察調査結果（9／25調査分）
（三条、加茂、田上地域）

9月25日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

（共 通）

- ナシ園地でのナシヒメシンクイの誘殺数は9月1半旬がピークとなりました。JAの防除情報等を参考にしながら、晩生品種への被害防止に努めましょう。また、一部でカイガラムシ類の発生や果実被害が確認されています。寄生の多い枝はせん除するかブラシでこすり落とす等の対応や、受粉樹へも対応をお願いします。
- 収穫後は**粗皮削り**を実施し、カイガラムシ類・シンクイムシ類等の越冬場所削減に努めましょう。

（ナ シ）

調査地点ごとに5新梢、100果を調査しました。

- セイヨウナシ褐色斑点病は依然として発生が増加しており、落葉・落果が多数確認されている園地もあります。次年度の菌密度を下げるため、満遍なく薬剤がかかるようSSの走行路に注意し、薬剤散布量を増やす等、丁寧な散布を心掛けましょう。また、り病落葉が多い園地では、落葉を収集し園外で処分しましょう。
- 今回調査で黒星病の発生は確認されませんでしたでしたが、翌年の感染源となる芽基部病斑が確認された場合、除去するとともに秋季防除を実施しましょう。

(ブドウ)

調査地点ごとに100葉、100果房を調査しました。

- 一部で、ペスタロチアつる枯病・すす点病による果実被害が、またハスモンヨトウによる葉の被害が確認されています。収穫後も防除を実施し、早期落葉や次年度の被害軽減に努めましょう。

(モモ)

- 次年度のせん孔細菌病春型枝病斑が増加しないよう、秋季防除を実施しましょう。

◇ 次回調査は10月10日(木)を予定しています。

※ 次回が本年度最後の調査です。

担当 : 中越支所 果樹共済係
TEL : 0258-36-8105
FAX : 0258-34-8020